

1991年 大会記録

国際

台湾女子国際大会(3月6~7日、台湾・台北)

44kg 級 吉村祥子(成城大) = 優勝、 50kg 級 福原邦子(京樽) = 2位、 53kg 級 木村こず恵(東洋大倶楽部) = 優勝、 57kg 級 小滝初江(朝日住建日体クラブ) = 2位、 61kg 級 星川君枝(ユナイテッドスティーラ) = 優勝、 65kg 級 飯島晶子(京樽) = 優勝、 70kg 級 浦野弥生(日体大) = 優勝、 75kg 級 船越光子(栃木・壬生高) = 2位

ヤリギン国際大会 = 男子フリースタイル(1月、ソ連・クラスノヤルスク)

52kg 級 笹山秀雄(自衛隊) = 二失、 57kg 級 花田秀実(自衛隊) = 3位、 62kg 級 吉田実(自衛隊) = 二失

トビリシ国際大会 = 男子フリースタイル(1月、ソ連・トビリシ)

52kg 級 笹山秀雄(自衛隊) = 四棄、 57kg 級 花田秀実(自衛隊) = 三失、 62kg 級 吉田実(自衛隊) = 二失

ポディブニー国際大会 = 男子グレコローマン(1月、ソ連・ロストフ)

48kg 級 蝦名康一(自衛隊) = 3敗、 52kg 級 西見健吉(自衛隊) = 2位、 62kg 級 渡口彦康(自衛隊) = 3位

アジア選手権 = 男子フリースタイル(4月17~19日、インド・ニューデリー)

48kg 級 丸山祐司(自衛隊) = 一棄、 52kg 級 野竹充孝(自衛隊) = 6位、 57kg 級 金浜良(ユニマツト) = 3位、 62kg 級 吉田実(自衛隊) = 4位、 68kg 級 五位塚悟(山梨・山梨農林高教) = 4位、 74kg 級 角崎朋博(山形・東根工高教) = 3位、 82kg 級 石沢常光(新日本プロレス職) = 4位、 90kg 級 = 派遣なし、 100kg 級 浅沼俊幸(自衛隊) = 5位、 130kg 級 小幡弘之(警視庁) = 5位

アジア選手権 = 男子グレコローマン(5月16~18日、イラン・テヘラン)

48kg 級 佐々木昌常(自衛隊) = 4位、 52kg 級 中森昭平(警視庁) = 2位、 57kg 級 渡口彦康(自衛隊) = 4位、 62kg 級 長内清一(盛岡大短大教) = 5位、 68kg 級 三宅靖志(東海商船) = 3位、 74kg 級 湯浅邦茂(山梨・甲府養護学教) = 3位、 82kg 級 永田裕志(日体大研) = 5位、 90kg 級 東出徹(奈良・高取高) = 3位、

100kg 級 野々村孝(香川・スポーツ財団) = 2位、 130kg 級 出口一也(和歌山県立体育館) = 4位

世界エスポアール選手権(7月12~19日、チェコ・プレビザ)

《男子フリースタイル》 48kg 級 山口讓司(国士舘大) = 9位、 52kg 級 窪木浩(明大) = 2位、 57kg 級 石島勇次(山梨学院大) = 5位、 62kg 級 市口勇志(日大) = 9位、 68kg 級 小柴健二(日体大) = 4位、 74kg 級 荻田剛志(早大) = 9位、 82kg 級 小野瀬哲也(山梨学院大) = 10位、 90kg 級 石庭新五(アイシン精機) = 10位、 100kg 級 千綿辰也(日体大) = 10位、 130kg 級 茂野充宏(国士舘大) = 二失

《男子グレコローマン》 48kg 級 森下浩(日体大) = 三失、 52kg 級 田中貴範(専大) = 8位、 57kg 級 尾白賢治(日体大) = 4位、 62kg 級 林雄一(日体大) = 10位、 68kg 級 長和徹(日体大) = 三失、 74kg 級 片山貴光(日体大) = 7位、 82kg 級 戸部徹(日体大) = 二失、 90kg 級 吉田幸司(日体大) = 二失、 100kg 級 伊藤忍(中大) = 二失、 130kg 級 中川誠一(日体大) = 4位

カナダカップ=男子フリースタイル(6月27~28日、カナダ)

48kg 級 若松正(東洋大) = 優勝、 52kg 級 藤村和人(日大) = 5位、 山口讓司(国士舘大) = 4位、 57kg 級 笹井朋人(日大) = 三失、 入江格(国士舘大) = 4位、 62kg 級 渡口彦春(国士舘大) = 二失、 中石義洋(日体大) = 三失、 68kg 級 吉本収(国士舘大) = 五失、 太田拓弥(日体大) = 四失、 74kg 級 荻田剛志(早大) = 5位、 82kg 級 太田浩史(青山学院大) = 二失、 100kg 級 梅田誠幸(東海大) = 二失、 130kg 級 高橋則行(東洋大) = 5位

世界カデット選手権(7月、カナダ・アルマ)

《男子フリースタイル》 40kg 級 永野佑二(大阪・西山田中) = 7位、 43kg 級 川原一平(愛媛・今治西中) = 9位、 47kg 級 山本徳郁(神奈川・桐蔭中) = 6位、 51kg 級 岡田英雅(群馬・前橋一中) = 予選敗退、 60kg 級 水井雅史(東京・京北中) = 8位、 65kg 級 染谷陽介(千葉・木間ヶ瀬中) = 8位、 70kg 級 青木拓哉(青森・八戸三) = 10位、 76kg 級 米沢重隆(・光ヶ丘) = 予選敗退、 83kg 級 今村雄介(群馬・城西) = 8位、 95kg 級 高倉洋一郎(・尾島) = 9位

《男子グレコローマン》 47kg 級 山口孝(茨城・愛宕中) = 9位、 51kg 級 重茂修平(青森・八戸二中) = 予選敗退、 55kg 級 鈴木明(千葉・野田一)、 70kg 級 小野間功一(茨城・愛宕中) = 7位、 76kg 級 庄司直矢(・大島) = 7位

北京国際大会（7月17～18日、中国・北京）

《男子フリースタイル》 48kg 級 福留清美（アイシン精機）= 三失、 52kg 級 清水一成（山形・上山農高教）= 3 位、 57kg 級 花田秀実（自衛隊）= 5 位、 68kg 級 外屋敷剛（自衛隊）= 4 位、 74kg 級 佐川正吉（自衛隊）= 二失、 82kg 級 伊藤敦（京都府体協）= 3 位、 90kg 級 岡部政浩（大塚ハケKK）= 4 位、 100kg 級 安田紀久雄（山梨・韮崎工高教）= 4 位、 130kg 級 小幡弘之（警視庁）= 3 位

《男子グレコローマン》 48kg 級 山本哲也（プリマハム）= 3 位、 52kg 級 内浩二（自衛隊）= 4 位、 57kg 級 福崎道大（自衛隊）= 4 位、 62kg 級 出口泰三（和歌山県教委）= 2 位、 68kg 級 麦島誠二（自衛隊）= 4 位、 90kg 級 山口孝二（自衛隊金沢）= 3 位、 100kg 級 福辺雅彦（奈良・御所高教）= 4 位、 130kg 級 奈良英則（警視庁）= 4 位

世界ジュニア選手権 = 男子グレコローマン（7月、スペイン・バルセロナ）

46kg 級 田中紀好（徳島・貞光工高）= 二失、 50kg 級 狩野達治（群馬・関東学園高）= 9 位、 54kg 級 粟田弘明（栃木・足利工大付高）= 二失、 58kg 級 椎野慎祐（新潟・巻農）= 二失、 63kg 級 細貝健一（新潟・巻農高）= 二失、 68kg 級 横山雅信（栃木・足利工大付）= 二失、 74kg 級 松島大輔（京都・宇治）= 二失、 81kg 級 高木章夫（日体大）= 8 位、 88kg 級 島谷正樹（青森・野辺地工高）= 二失、 115kg 級 室谷正憲（和歌山・和歌山東）= 10 位

フリースタイルは実施せず

世界選手権 = 女子（8月24～25日、東京・代々木競技場第2体育館）

44kg 級 吉村祥子（スポーツ東急）= 3 位、 47kg 級 山本美憂（朝日住建ク）= 優勝、 50kg 級 東陽子（朝日住建）= 3 位、 53kg 級 遠藤美子（東洋大）= 2 位、 57kg 級 川崎明美（自衛隊）= 8 位、 61kg 級 星川君枝（ユナイテッドスティール）= 2 位、 65kg 級 飯島晶子（京樽）= 優勝、 70kg 級 浦野弥生（京樽）= 優勝、 75kg 級 船越光子（栃木・壬生高）= 4 位

世界選手権（9月27日～10月3日、ブルガリア・バルナ）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 平野孝喜（京樽）= 二失、 52kg 級 佐藤満（日本体育会）= 5 位、 57kg 級 金浜良（ユニマツト）= 9 位、 62kg 級 安達巧（日体大助）= 7 位、 68kg 級 赤石光生（ユニマツト）= 8 位、 74kg 級 角崎朋博（山形・東根工高教）= 8 位、 82kg 級 石沢常光（新日プロレス職）= 三失、 90kg 級 赤石明雄（長田玉夫商会）= 二失、 100kg 級 中西学（新日プロレス職）= 10 位、

130kg 級 小幡弘之（警視庁） = 三失

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 大橋正教（ユニマツト） = 7 位、 52kg 級 中森昭平（警視庁）、 57kg 級 藤岡道三（奈良県体協） = 6 位、 62kg 級 西口茂樹（日体大助） = 5 位、 68kg 級 森巧（自衛隊） = 四失、 74kg 級 伊藤広道（自衛隊） = 二失、 82kg 級 永田裕志（日体大研） = 二失、 90kg 級 森山泰年（自衛隊） = 9 位、 100kg 級 近藤務（自衛隊） = 二失、 130kg 級 奈良英則（警視庁） = 二失

サンキストカップ = 女子（11月9～10日、米国・フェニックス）

44kg 級 村田智子（東洋大倶楽部） = 2 位、 47kg 級 上林美穂（愛知・桜丘高） = 2 位、 50kg 級 山本美憂（朝日住建クラブ） = 優勝、 53kg 級 木村こず恵（東洋大倶楽部） = 3 位、 57kg 級 野上代生子（代々木クラブ） = 4 位、 61kg 級 清水真理子（畑村クラブ） = 優勝

クランスマン国際大会 = 女子（11月14～17日、カナダ・バンクーバー）

44kg 級 村田智子（東洋大倶楽部） = 2 位、 47kg 級 上林美穂（愛知・桜丘高） = 優勝、 50kg 級 山本美憂（朝日住建クラブ） = 優勝、 53kg 級 木村こず恵（東洋大倶楽部） = 3 位、 57kg 級 野上代生子（代々木クラブ） = 4 位、 61kg 級 清水真理子（畑村クラブ） = 優勝

国内

アジア選手権代表選考会（3月18～20日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 平野孝喜（山梨学院大）、 52kg 級 佐藤満（日体大助）、 57kg 級 金浜良（ユナイテッドスティール）、 62kg 級 安達巧（日体大助）、 68kg 級 赤石光生（ユナイテッドスティール）、 74kg 級 角崎朋博（山形・東根工高教）、 82kg 級 石沢常光（新日本プロレス職）、 90kg 級 赤石明雄（長田玉夫商会）、 100kg 級 浅沼俊幸（自衛隊）、 130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 蝦名康一（自衛隊）、 52kg 級 中森昭平（警視庁）、 57kg 級 渡口彦康（自衛隊）、 62kg 級 西口茂樹（日体大助）、 68kg 級 三宅靖志（東海商船）、 74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、 82kg 級 永田裕志（日体大）、 90kg 級 森山泰年（自衛隊）、 100kg 級 野々村孝（山梨学院大）、 130kg 級 高橋則行（東洋大）

全国高校選抜大会（3月29～30日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1]茨城・霞ヶ浦(4年連続4度目)、[2]群馬・西邑楽、[3]秋田・秋田商、静岡・修善寺工

《個人戦優勝者》 46kg級 後藤照行(茨城・霞ヶ浦)、 50kg級 石田隆(茨城・霞ヶ浦)、 54kg級 横瀬二郎(京都・宇治)、 58kg級 杉山貴光(静岡・清水工)、 63kg級 天谷満博(茨城・土浦日大)、 68kg級 井筒崇裕(茨城・霞ヶ浦)、 74kg級 川合達夫(群馬・西邑楽)、 115kg級 ルイス・バレラ(宮城・仙台育英)

全日本寝技選手権(3月31日、東京・スポーツ会館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 丸山祐司(自衛隊)、 52kg級 藤村和人(日大)、 57kg級 花田秀実(自衛隊)、 62kg級 吉田実(自衛隊)、 68kg級 五位塚悟(山梨・山梨農林高教)、 74kg級 佐川正吉(自衛隊)、 82kg級 和久井始(自衛隊)、 90kg級 本田大(自衛隊)、 100kg級 浅沼俊幸(自衛隊)、 130kg級 本田多聞(自衛隊)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 佐々木昌常(自衛隊)、 52kg級 内浩二(自衛隊)、 57kg級 西見健吉(自衛隊)、 62kg級 元木康年(自衛隊)、 68kg級 大久保康裕(自衛隊)、 74kg級 伊藤広道(自衛隊)、 82kg級 田崎光之(自衛隊)、 90kg級 森山泰年(自衛隊)、 100kg級 = 出場なし、 130kg級 神子沢健一(自衛隊)

《女子優勝者》 44kg級 吉村祥子(成城クラブ)、 47kg級 田中真由美(成城クラブ)、 50kg級 山本美憂(朝日住建日体クラブ)、 53kg級 東陽子(朝日住建日体クラブ)、 57kg級 木村こず恵(東洋大クラブ)、 61kg級 星川君枝(ユナイテッドスティーラ)、 65kg級 飯島晶子(京樽)、 70kg級 浦野弥生(京樽)、 75kg級 船越光子(栃木・壬生高)

全日本エスポアール選手権(4月25~26日、東京・駒沢体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 山口譲司(国士舘大)、 52kg級 窪木浩(明大)、 57kg級 石島勇次(山梨学院大)、 62kg級 市口勇志(日大)、 68kg級 小柴健二(日体大)、 74kg級 荻田剛志(早大)、 82kg級 小野瀬哲也(山梨学院大)、 90kg級 石庭新五(アイシン精機)、 100kg級 千綿辰也(日体大)、 130kg級 茂野充宏(国士舘大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 森下浩(日体大)、 52kg級 田中貴範(専大)、 57kg級 尾白賢治(日体大)、 62kg級 林雄一(日体大)、 68kg級 長和

徹(日体大)、74kg級 片山貴光(日体大)、82kg級 戸部徹(日体大)、90kg級 吉田幸司(日体大)、100kg級 伊藤忍(中大)、130kg級 中川誠一(日体大)

全日本女子選手権(5月4日、東京・代々木第二体育館)

《優勝者》44kg級 村田智子(東洋大倶楽部)、47kg級 山本美憂(朝日住建ク)、50kg級 木村こず恵(東洋大倶楽部)、53kg級 川崎明美(自衛隊)、57kg級 坂本涼子(リプレ中京女大)、61kg級 星川君枝(ユナイテッドスティール)、65kg級 飯島晶子(京樽)、70kg級 浦野弥生(京樽)、75kg級 船越光子(栃木・壬生高)、75kg以上級 上野弘子(盛岡大)

全日本ジュニア選手権=男子グレコローマン(5月4~5日、群馬・館林城沼体育館)

46kg級 田中紀好(徳島・貞光工高)、50kg級 狩野達治(群馬・関東学園高)、54kg級 栗田弘明(栃木・足利工大付高)、58kg級 大川卓治(群馬・西邑楽高)、63kg級 細貝健一(新潟・巻農高)、68kg級 横山雅信(栃木・足利工大付)、74kg級 川合達夫(群馬・西邑楽)、81kg級 高木章夫(日体大)、88kg級 島谷正樹(青森・野辺地工高)、115kg級 室谷正憲(和歌山・和歌山東)

グレコローマンのみ

東日本学生リーグ戦(5月14~17日、東京・駒沢体育館)

《順位》[1]日体大(13年連続15度目)、[2]国士大、[3]日大、[4]中大、[5]大東大、[6]東洋大、[7]早大、[8]山梨学院大

全日本社会人選手権(5月18~19日、埼玉・朝霞市総合体育館)

《団体戦優勝チーム》 実業団 ユナイテッドスティールA、クラブ 警視庁A

《男子フリースタイル優勝者》48kg級 福留清美(アイシン精機)、52kg級 清水一成(山形ク)、57kg級 花田秀実(自衛隊)、62kg級 奥山恵二(山形ク)、68kg級 外屋敷剛(自衛隊)、74kg級 佐川正吉(自衛隊)、82kg級 伊藤敦(京都ク)、90kg級 岡部政浩(東洋大ク)、100kg級 安田紀久雄(山梨ク)、130kg級 小幡弘之(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》48kg級 山本晋也(北海道協会)、52kg級 内浩二(自衛隊)、57kg級 福崎道大(自衛隊)、62kg級 出口泰三(和歌山県協会)、68kg級 麦島誠二(自衛隊)、74kg級 植村久弥(三重・鳥羽高教)、82kg級 向井孝博(八田接骨院)、90kg級 山口孝二(自衛隊)、100kg級 福辺雅彦(奈良ク)

130kg 級 奈良英則（警視庁）

西日本学生春季リーグ戦（5月25～26日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1]福岡大（2季連続15度目）、[2]近大、[3]同志社大、[4]徳山大、
[5]桃山学院大、[6]関大

東日本学生春季新人戦（6月20～22日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 工藤博（山梨学院大）、 52kg 級 飯村善明（大東大）、 57kg 級 伊藤弘之（専大）、 62kg 級 和田貴広（国土館大）、 68kg 級 山方政人（日体大）、 74kg 級 宮本健二（日体大）、 82kg 級 小野瀬哲也（山梨学院大）、 90kg 級 権瓶広光（専大）、 100kg 級 和田敏行（日体大）、 130kg 級 中川誠一（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 佐伯豊（日大）、 52kg 級 田中貴範（専大）、 57kg 級 西島隆（日体大）、 62kg 級 坂上桂一（日体大）、 68kg 級 長和徹（日体大）、 74kg 級 宮本健二（日体大）、 82kg 級 和田敏行（日体大）、 90kg 級 横山秀和（日体大）、 100kg 級 戸部徹（日体大）、 130kg 級 高柳雄志（中大）

全日本選手権（6月20～22日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 平野孝喜（京樽）、 52kg 級 佐藤満（日本体育会）、 57kg 級 奥山恵二（山形・山形南高教）、 62kg 級 藤田隆和（国土大助）、 68kg 級 赤石光生（ユニマツト）、 74kg 級 原喜彦（新潟・新潟北高教）、 82kg 級 石沢常光（新日プロレス職）、 90kg 級 赤石明雄（長田玉夫商会）、 100kg 級 中西学（新日プロレス職）、 130kg 級 小幡弘之（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 大橋正教（ユニマツト）、 52kg 級 西見健吉（自衛隊）、 57kg 級 藤岡道三（奈良県体協）、 62kg 級 西口茂樹（日体大助）、 68kg 級 森巧（自衛隊）、 74kg 級 伊藤広道（自衛隊）、 82kg 級 屋比久保（沖縄・北中城高教）、 90kg 級 森山泰年（自衛隊）、 100kg 級 近藤務（自衛隊）、 130kg 級 奈良英則（警視庁）

西日本学生新人戦（6月29～30日、大阪・堺市初芝体育館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 広瀬和彦（福岡大）、 52kg 級 岡本満教（福岡大）、 57kg 級 阪本吉高（桃山学院大）、 62kg 級 中野英樹（福岡大）、 68kg 級 松原弘和（福岡大）、 74kg 級 馬場博隆（福岡大）、 82kg 級 奥田真二（同志社大）、 90kg 級 三村勝彦（福岡大）、 130kg 級 元平順也（近大）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 福田正樹(福岡大)、 52kg 級 神吉真吾(桃山学院大)、 57kg 級 阪本吉高(桃山学院大)、 62kg 級 中島泰生(桃山学院大)、 68kg 級 松原弘和(福岡大)、 74kg 級 奥田真二(同志社大)、 82kg 級 正岡勇人(福岡大)、 90kg 級 三村勝彦(福岡大)、 130kg 級 元平順也(近大)

世界選手権代表最終選考会(7月11~12日、東京・代々木競技場第2体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 山下忍(香川県スポーツ振興財団)、 52kg 級 森進一(東洋大)、 57kg 級 金浜良(ユニマツト)、 62kg 級 栄和人(京樽)、 68kg 級 赤石光生(ユニマツト)、 74kg 級 角崎朋博(山形・東根工高教)、 82kg 級 石沢常光(新日本プロレス職)、 90kg 級 赤石明雄(長田玉夫商会)、 100kg 級 中西学(新日本プロレス職)、 130kg 級 小幡弘之(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 佐々木昌常(自衛隊)、 52kg 級 中森昭平(警視庁)、 57kg 級 藤岡道三(奈良県体協)、 62kg 級 大城利幸(沖縄県協会)、 68kg 級 森巧(自衛隊)、 74kg 級 伊藤広道(自衛隊)、 82kg 級 永田裕志(日体大研)、 90kg 級 森山泰年(自衛隊)、 100kg 級 近藤務(自衛隊)、 130kg 級 奈良英則(警視庁)

インターハイ(8月2~5日、静岡・焼津市体育館)

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦(2年連続4度目)(2年連続5度目)、[2] 群馬・西邑楽、[3] 静岡・修善寺工、秋田・秋田商

《個人戦優勝者》 46kg 級 本田原明(鹿児島・鹿児島商工)、 50kg 級 勝目力也(静岡・沼津学園)、 54kg 級 木沢美幸(茨城・霞ヶ浦)、 58kg 級 杉山貴光(静岡・清水工)、 63kg 級 相磯武仁(静岡・沼津学園)、 68kg 級 山下哲生(和歌山・南部)、 74kg 級 木村洋介(北海道・北海)、 115kg 級 滝口徹(山形・東根工)

全国高校生グレコローマン選手権(8月16~18日、大阪・金岡公園体育館)

《優勝者》 46kg 級 中村吉元(三重・鳥羽)、 50kg 級 永井将紀(茨城・霞ヶ浦)、 54kg 級 横瀬二郎(京都・宇治)、 58kg 級 越智雅史(愛媛・今治西)、 63kg 級 天谷満博(茨城・土浦日大)、 68kg 級 長谷川博(茨城・土浦日大)、 74kg 級 亀井忠洋(愛知・星城)、 81kg 級 小浦宏之(和歌山・和歌山東)、 87kg 級 鶴岡利明(香川・多度津工)、 115kg 級 瀬川浩寿(茨城・霞ヶ浦)

全日本学生選手権(9月13~16日、群馬・草津総合体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 若松正(東洋大)、 52kg 級 藤村和人(日大)、 57kg 級 入江格(国士舘大)、 62kg 級 中石義洋(日体大)、 68kg 級 太田拓弥(日体大)、 74kg 級 平塚洋充(日大)、 82kg 級 笹原洋一郎(日体大)、 90kg 級 藤田和之(日大)、 100kg 級 小玉康二(国士舘大)、 130kg 級 浜上稔(日体大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 森下浩(日体大)、 52kg 級 朝比奈巖(日体大)、 57kg 級 深水真司(日体大)、 62kg 級 栗本秀樹(日体大)、 68kg 級 田橋治(日体大)、 74kg 級 塩川和仁(日体大)、 82kg 級 太田浩史(青山学院大)、 90kg 級 岩淵利則(国士舘大)、 100kg 級 梅田誠幸(東海大)、 130kg 級 浜上稔(日体大)

全日本学生王座決定戦(9月24~25日、東京・駒沢体育館) = 団体戦の勝ち点方式《順位》[1] 日体大(2年連続14度目)、[2] 国士舘大、[3] 日大

西日本学生選手権(10月4~6日、大阪・堺市金岡公園体育館)

《男子フリースタイル優勝者》 48kg 級 池田徹(福岡大)、 52kg 級 西村聡(福岡大)、 57kg 級 西田月巳(福岡大)、 62kg 級 中野英樹(福岡大)、 68kg 級 高田和拓(徳山大)、 74kg 級 奥田真二(同志社大)、 82kg 級 辻嘉一(福岡大)、 90kg 級 三村勝彦(福岡大)、 130kg 級 野崎賢治(近大)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 池田徹(福岡大)、 52kg 級 西村聡(福岡大)、 57kg 級 中城宏樹(同志社大)、 62kg 級 石山直樹(同志社大)、 68kg 級 高田和拓(徳山大)、 74kg 級 榎本晴俊(福岡大)、 82kg 級 坂本直生(福岡大)、 90kg 級 三村勝彦(福岡大)、 130kg 級 野崎賢治(近大)

国体(10月13~16日、石川・志賀町総合体育館)

《成年フリースタイル優勝者》 48kg 級 若松正(鹿児島・東洋大)、 52kg 級 笹山秀雄(埼玉・自衛隊)、 57kg 級 佐々木一郎(香川・県スポーツ振興財団)、 62kg 級 奥山恵二(山形・山形南高教)、 68kg 級 小柴健二(群馬・日体大)、 74kg 級 原喜彦(新潟・新潟北高教)、 82kg 級 伊藤敦(京都・府体協)、 90kg 級 赤石明雄(山梨・長田玉夫商会)、 100kg 級 水橋徹(千葉・三田中教)、 130kg 級 小幡弘之(東京・警視庁)

《成年グレコローマン優勝者》 48kg 級 山本哲也(北海道・プリマハム)、 52kg 級 池崎友和(石川・金沢自衛隊)、 57kg 級 中森昭平(東京・警視庁)、 62kg 級

谷山康隆（鹿児島・国士大）、 68kg 級 大久保康裕（埼玉・自衛隊）、 74kg 級 湯浅邦茂（山梨・甲府養護学教）、 82kg 級 向井孝博（石川・八田接骨院）、 90kg 級 山口孝二（石川・金沢自衛隊）、 100kg 級 野々村孝（香川・スポーツ財団）、 130kg 級 鈴木賢一（千葉・読売千葉広告社）

《少年フリースタイル優勝者》 46kg 級 千葉仁（神奈川・向上）、 50kg 級 石田隆（茨城・霞ヶ浦）、 54kg 級 木沢美幸（茨城・霞ヶ浦）、 58kg 級 杉山貴光（静岡・清水工）、 63kg 級 天谷満博（茨城・土浦日大）、 68kg 級 小泉文人（千葉・八千代松陰）、 74kg 級 伊藤学（秋田・秋田経法大付）、 81kg 級 高橋慎弥（群馬・西邑楽）、 88kg 級 小沢竜二（愛知・星城）、 115kg 級 滝口徹（山形・東根工）

《少年グレコローマン優勝者》 46kg 級 中村吉元（三重・鳥羽）、 50kg 級 狩野達治（群馬・関東学園）、 54kg 級 丹康浩（静岡・焼津中央）、 58kg 級 大川卓治（群馬・西邑楽）、 63kg 級 細貝健一（新潟・巻農）、 68kg 級 松永文悟（石川・星稜）、 74kg 級 木村洋介（北海道・北海）、 81kg 級 小浦宏之（和歌山・和歌山東）、 88kg 級 鶴岡利明（香川・多度津工）、 115kg 級 篠崎正二（茨城・霞ヶ浦）

全日本大学選手権（11月3～4日、山形・山形商高）

《優勝者》 48kg 級 若松正（東洋大）、 52kg 級 窪木浩（明大）、 57kg 級 小倉偉延（専大）、 62kg 級 中石義洋（日体大）、 68kg 級 勝龍三郎（日体大）、 74kg 級 平塚洋充（日大）、 82kg 級 笹原洋一郎（日体大）、 90kg 級 藤田和之（日大）、 100kg 級 小玉康二（国士館大）、 130kg 級 茂野充宏（国士館大）

《大学対抗得点》[1] 国士館大（8年ぶり3度目）、[2] 日体大、[3] 日大

全国社会人オープン選手権（11月9～10日、神奈川・横浜消防訓練センター）

《男子フリースタイル》 48kg 級 岩坂香治（アイシン精機）、 52kg 級 丹治尚弘（愛隣会）、 57kg 級 藤谷務（東洋大倶楽部）、 62kg 級 松田高行（自衛隊）、 68kg 級 藤田隆和（国士館大助）、 74kg 級 横山興道（自衛隊）、 82kg 級 岸本茂範（日立TOKクラブ）、 90kg 級 本田大（自衛隊）、 100kg 級 野々村孝（香川県協会）、 130kg 級 鈴木賢一（千葉県協会）

《男子グレコローマン》 48kg 級 大城正一（東洋紙業）、 52kg 級 内浩二（自衛隊）、 57kg 級 福崎道大（自衛隊）、 62kg 級 元木康年（自衛隊）、 68kg 級 木村好男（警視庁）、 74kg 級 谷口茂之（警視庁）、 82kg 級 渡部秀隆（自衛隊）、 90kg 級 木下英規（自衛隊）、 100kg 級 野々村孝（香川県協会）、 130kg 級 奈

良英則（警視庁）

全日本大学グレコローマン選手権（11月16～17日、東京・駒沢屋内球技場）

《優勝者》 48kg級 森下浩（日体大）、 52kg級 朝比奈巖（日体大）、 57kg級 入江格（国士舘大）、 62kg級 橋爪幸彦（日体大）、 68kg級 田橋治（日体大）、 74kg級 名倉昌輝（山梨学院大）、 82kg級 浅井努（日体大）、 90kg級 藤田和之（日大）、 100kg級 鈴木文雄（山梨学院大）、 130kg級 茂野充宏（国士舘大）

《大学対抗得点》[1]日体大（3年連続3度目）、[2]国士舘大、[3]山梨学院大

西日本学生秋季リーグ戦（11月30日～12月1日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1]福岡大（3季連続16度目）、[2]近大、[3]桃山学院大、[4]徳山大、[5]同志社大、[6]南九州大

東日本学生秋季新人戦（12月19～21日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 佐藤謙二（国士舘大）、 52kg級 余膳和宏（専大）、 57kg級 森進一（東洋大）、 62kg級 伊藤弘之（専大）、 68kg級 中川浩三（東洋大）、 74kg級 片山貴光（日体大）、 82kg級 横山秀和（日体大）、 90kg級 小野瀬哲也（山梨学院大）、 100kg級 鈴木文雄（山梨学院大）、 130kg級 茂野充宏（国士舘大）

《男子グレコローマン優勝者》 48kg級 綿引豊（国士舘大）、 52kg級 嘉戸洋（国士舘大）、 57kg級 佐藤順一（日大）、 62kg級 濱田広嗣（東洋大）、 68kg級 坂上桂一（日体大）、 74kg級 片山貴光（日体大）、 82kg級 小野瀬哲也（山梨学院大）、 90kg級 吉田幸司（日体大）、 100kg級 千綿辰也（日体大）、 130kg級 茂野充宏（国士舘大）

全日本女子オープン選手権（12月1日、東京・スポーツ会館）

《優勝者》 44kg級 吉村祥子（スポーツ東急）、 48kg級 上林美穂（羽島市連盟）、 50kg級 東陽子（朝日住建）、 53kg級 遠藤美子（東洋大）、 57kg級 飯島晶子（京樽）、 61kg級 星川君枝（ユニマツト）、 65kg級 小笠原樹子（リプレ中京女大）、 70kg級 浦野弥生（京樽）、 75kg級 船越光子（栃木・壬生高）、 75kg以上級 上野弘子（盛岡大）

バルセロナ五輪第1次選考会（12月15～17日、茨城・高萩大心苑）

《男子フリースタイル優勝者》 48kg級 入江隆（自衛隊）、 52kg級 笹山秀雄（自

衛隊)、 57kg 級 奥山恵二(山形・山形南高教)、 62kg 級 栄和人(京樽)、 68kg 級 吉本収(国士館大)、 74kg 級 原喜彦(新潟・新潟北高教)、 82kg 級 石沢常光(新日本プロレス職)、 90kg 級 太田章(早大教)、 100kg 級 中西学(新日本プロレス職)、 130kg 級 小幡弘之(警視庁)

《男子グレコローマン優勝者》 48kg 級 佐々木昌常(自衛隊)、 52kg 級 清水光二(山形県競技力向上本部)、 57kg 級 花原大介(日体大)、 62kg 級 栗本秀樹(日体大)、 68kg 級 森巧(自衛隊)、 74kg 級 湯浅邦茂(山梨・甲府養護学教)、 82kg 級 田崎光之(自衛隊)、 90kg 級 東出徹(奈良・高取高教)、 100kg 級 近藤務(自衛隊)、 130kg 級 鈴木賢一(読売千葉広告社)